

わたしはぶどうの木、

あなたがたはその枝である。

人がわたしにつながっており、

わたしもその人につながっていれば、

その人は豊かに実を結ぶ。

～ヨハネによる福音書15：5-9～



shalom (シャローム) は「平和」を意味するヘブライ語。
「こんにちは」「さよなら」の挨拶として使われています。

神は言われた。「地には草を芽生えさせよう。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」そのようになった。地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。夕べがあり、朝があった。第三の日である。 旧約聖書 創世記1：11-13

弘前が桜色に染まり、まさに春本番です。日本には200種を超える桜がありますが、最も親しまれ、一斉に開花する桜の代表といえばソメイヨシノ。花は3、4個集まって咲く花弁5枚の一重咲き。人の手を介して日本中に植えられ、各地に桜の名所があり、日本人に馴染み深い桜です。ところで皆さんはソメイヨシノが「たった1本のソメイヨシノの枝が植えられて増えたクローン植物」であることを知っていますか？

時は江戸時代、ソメイヨシノはエドヒガンザクラ（母種）とオオシマザクラ（父種）の交配によって生まれた「親の良いとこ取りの美人さん」です。染井村（現在の東京都豊島区）の植木屋が「吉野」の名で売り出しましたが、奈良の吉野山のヤマザクラと混同しやすいので、明治33年に「染井吉野」の名前にしたそうです。

人々の心を引きつけるソメイヨシノは、実は自然に増えることができません。種子で増やすと親の形質が必ずしも子に伝わるとは限らないため、ソメイヨシノの美しい姿をそのまま残して増やすためには、接ぎ木や挿し木、取り木などの栄養繁殖方法しかなく、結果「クローン植物」として全国に広まったのです。

そもそも桜には、「自家不和合性」という「自分自身の花粉では受精しない」性質があります。これには、自分の遺伝子を他の植物へ拡散したり他の遺伝子を取り入れることで、種族を進化させる狙いがあるようです。ソメイヨシノ以外の桜は同種類でも別の桜と交配することができますが、ソメイヨシノはクローン、つまり「すべてのソメイヨシノは自分自身」なので別個体のソメイヨシノと交配はできません。種類の違う桜となら交配できますが、それではソメイヨシノとは違う桜になってしまいます。

条件が合えば、ソメイヨシノが一斉に同じ花を開花させる理由は、同じ遺伝子を持つクローンだから。その意味では、世界でも類を見ない日本中に配置された「生物気象観測レーダー」と言えます。

ソメイヨシノは、自分で環境や気候に適する進化も自然繁殖もできません。

「人が気にかけて世話をしないと生存できない桜」なのです。

美しい花を一斉に咲かせ、巧みに人々の心をとらえた結果、人と共存する道を選んだソメイヨシノ。人と共に生きるソメイヨシノに、愛情がわきませんか？



◆今年度初のシャボン玉 4月12日(月)

雲一つない晴天のもと、久しぶりにシャボン玉で生徒をお出迎え。

中高生の笑顔にたくさん出会えました。



数名の生徒と一緒に

